

# 第55期 中間報告書

〔自 平成23年4月 1日〕  
〔至 平成23年9月30日〕



東京鋼鐵株式会社

証券コード 5448

私達は、  
鉄資源のリサイクル企業です。

限りある地球資源を再生し  
社会に役立てています。

## CONTENTS

株主の皆様へ	2
事業概況	3
通期の見通し	4
財務ハイライト	5
主要財務データ	6
TOPICS	9
会社概況	10
株主メモ	裏表紙

## 株主の皆様へ

株主の皆様には平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに、当社第55期中間期（自 平成23年4月1日  
至 平成23年9月30日）の営業概況と決算につきまして  
ご報告申し上げます。

株主の皆様におかれましては、一層のご支援とご鞭撻  
を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年12月



代表取締役社長  
南 良隆

## 当中間期の事業概況について

当中間期におけるわが国経済は、甚大な被害をもたらした東日本大震災の影響と、福島原発事故が未だ終息の目処がつかず、電力使用制限の懸念を抱えながらも、企業の生産活動は徐々に回復しつつあります。しかし、欧州の財政問題に端を発した世界経済の変調に加え、長期化する円高や株安の影響により、景気の先行きに不透明感が高まっております。

当社の属する普通鋼電炉業界におきましては、緩やかな景気回復局面ではあるものの、その回復力は弱く、主原料である鉄スクラップ価格の下落により市況の在庫意欲も低下するなど、

厳しい経営環境となりました。

こうした状況のもと当社では、夏季の電力使用量ピーク時間帯における電力使用を避けるため、生産体制を全面的に夜間にシフトし、計画停電回避の対応を全社的に取り組んでまいりました。また、環境負荷低減策として、加熱炉設備の燃料転換工事を行い、工場全体で約5%の二酸化炭素排出削減が可能となりました。

## 通期の見通しについて

今後の見通しにつきましては、依然として内外の経営環境は厳しい状況が続き、本格的な回復までには時間を要するものと思われれます。

当社といたしましては、引き続き今後の市場動向を慎重に見極めながら、需要見合いの生産、徹底したコスト削減と付加価値創造による拡販策を成長戦略として取り組んでまいり所存であります。

### 平成24年3月期の業績予想

売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
16,300百万円	1,470百万円	1,500百万円	830百万円	47円67銭

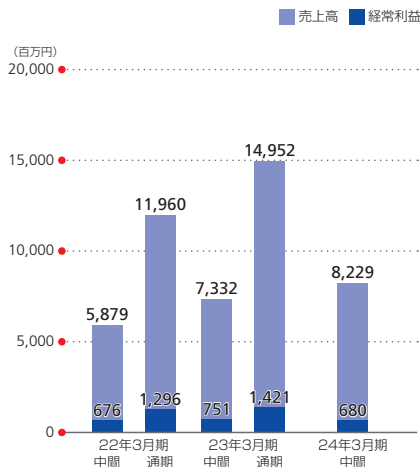
### 株主還元について

当中間期の配当金につきましては、今後の事業環境及び事業の継続的成長のための内部留保等を総合的に勘案し、1株当たり5円とさせて頂きたいと存じます。

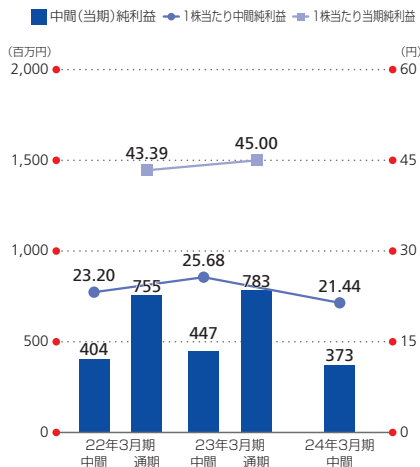
中間配当	期末配当 (予想)	合計 (予想)	配当性向 (予想)
5円	5円	10円	21.0%

# 財務ハイライト

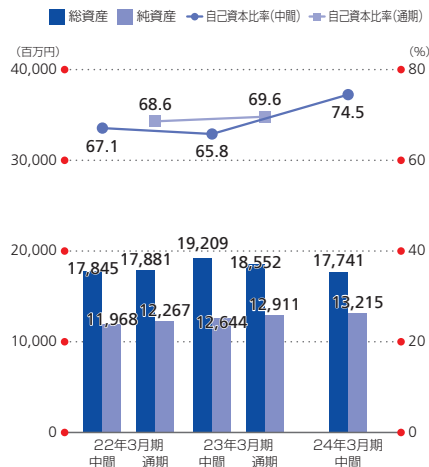
## 売上高・経常利益



## 中間(当期)純利益・1株当たり中間(当期)純利益



## 総資産・純資産・自己資本比率



# 主要財務データ

## 中間貸借対照表 (要旨)

(単位：百万円)

科目		当中間期 平成23年9月30日現在	前期 平成23年3月31日現在
資産の部	流動資産	7,694	8,163
	固定資産	10,046	10,389
	有形固定資産	9,550	9,927
	無形固定資産	89	50
	投資その他の資産	407	412
資産合計		17,741 <b>1</b>	18,552
負債の部	流動負債	2,606	3,675
	固定負債	1,919	1,965
	負債合計	4,526 <b>2</b>	5,641
純資産の部	株主資本	10,997	10,693
	資本金	2,453	2,453
	資本剰余金	981	981
	利益剰余金	7,576	7,272
	自己株式	△13	△13
	評価・換算差額等	2,217	2,217
	純資産合計	13,215 <b>3</b>	12,911
負債・純資産合計		17,741	18,552

## ポイント解説

### 1 資産について

流動資産は、前期末に比べ468百万円減少(△5.7%)し7,694百万円となりました。これは、法人税等の納税と短期借入金の返済を行うことにより預け金が550百万円減少したこと等によります。固定資産につきましては、減価償却費相当分の減少等により、前期末に比べ342百万円減少(△3.3%)し10,046百万円となりました。この結果、総資産は前期末に比べ811百万円減少(△4.4%)し17,741百万円となりました。

### 2 負債について

流動負債は、前期末に比べ1,069百万円減少(△29.1%)し2,606百万円となりました。これは、買掛金の期日前払実施による仕入債務の減少と法人税等の納税と短期借入金の返済等によるものです。固定負債につきましては、借入金の返済により長期借入金が50百万円減少したことにより、前期末に比べ45百万円減少(△2.3%)し1,919百万円となりました。この結果、負債合計は前期末に比べ1,114百万円減少(△19.8%)し4,526百万円となりました。

### 3 純資産について

純資産合計は、前期末に比べ303百万円増加(2.4%)し13,215百万円となりました。これは、純利益計上により利益剰余金が303百万円増加したことによるものです。

## 主要財務データ

### 中間損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科目	当中間期	前中間期
	平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで	平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで
売上高	8,229 <b>1</b>	7,332
売上原価	7,042	6,118
売上総利益	1,187	1,214
販売費及び一般管理費	529	501
営業利益	657 <b>2</b>	712
営業外収益	34	46
営業外費用	11	7
経常利益	680 <b>3</b>	751
特別利益	36	0
特別損失	80	3
税引前中間純利益	636	748
法人税等	263	301
中間純利益	373 <b>4</b>	447

### ポイント解説

#### 1 売上高について

国内鋼材需要は、東日本大震災の影響により企業の生産活動は停滞し、為替も円高に振れたため、国内の設備投資が抑制されたことにより盛り上がりを欠いております。しかし、鋼片需要については高成長が続くアジアで旺盛であったため、円高で採算は厳しかったものの積極的な販売活動により、売上高は前年同期比896百万円増加（12.2%）し8,229百万円となりました。

#### 2 営業利益について

加熱炉燃料転換工事による圧延操業停止により、大幅に製造コストが上昇したに加え、付加価値の低い鋼片の販売数量が増加したこともあり、営業利益は前年同期比54百万円減少（△7.7%）し657百万円となりました。

#### 3 経常利益について

上記営業利益の減少に加え、営業外収支の減少により前年同期比71百万円減少（△9.4%）し680百万円となりました。

#### 4 中間純利益について

法人税等を差し引いた結果、経常利益の減少と、夏季定期工事による加熱炉設備の更新に伴う旧設備の除却損失80百万円を計上したことにより、前年同期比73百万円減少（△16.5%）し373百万円となりました。

### 中間キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

科目	当中間期	前中間期
	平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで	平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	412	1,566
投資活動によるキャッシュ・フロー	△268	△319
財務活動によるキャッシュ・フロー	△659	△267
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△515	979
現金及び現金同等物の期首残高	3,293	3,184
現金及び現金同等物の中間期末残高	2,777	4,163

### 主な設備投資

内容	投資額
圧延設備関連	63百万円
システム関連	54百万円
I F R S 対応関連	30百万円

### キャッシュ・フローの状況

当中間期末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）の残高は、前期末に比べて515百万円の減少となり2,777百万円となりました。なお、当中間期における各キャッシュ・フローの状況と要因は次の通りであります。

#### 1. 営業活動によるキャッシュ・フローについて

営業活動の結果得られた資金は412百万円（前年同期は1,566百万円の収入）となりました。収入の主な内訳は、税引前中間純利益636百万円、減価償却費418百万円と、たな卸資産の減少81百万円であります。支出の主な内訳は、買掛金の前払実施に伴う仕入債務の減少214百万円と売上債権の増加110百万円、法人税等の支払による支出432百万円であります。

#### 2. 投資活動によるキャッシュ・フローについて

投資活動の結果使用した資金は268百万円（前年同期は319百万円の支出）となりました。これは、有形、無形固定資産の取得による支出261百万円が要因であります。

#### 3. 財務活動によるキャッシュ・フローについて

財務活動の結果使用した資金は659百万円（前年同期は267百万円の支出）となりました。これは、借入金の返済により有利子負債が589百万円減少したことと、剰余金の配当による支出69百万円によるものであります。

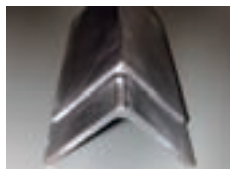
# TOPICS

## 1. 山形鋼の用途開拓による拡販

当社は山形鋼の専門メーカーとして、鉄構開発部を中心に用途開拓に取り組んでおります。また平成23年4月から小山工業高等専門学校様との産学連携により、新たな商品作りを開始しました。

### (1) R付山形鋼

通常の山形鋼では、重ね合わせる時、頂部の形状からピタリと重ね合わせることが出来ませんでした。R付山形鋼は山形鋼の頂点にRを付けこの問題を解決した商品です。この形状の利点を生かすことにより、加工コスト削減に大きく寄与することが可能です。断面性能も通常の山形鋼に比べ大きな遜色はありません。平成23年10月5日、実用新案登録がされました。



R付山形鋼

### (2) 太陽光発電架台

太陽光パネルを支える架台について、当社の山形鋼を使用したオリジナル商品を開発しました。



太陽光発電架台

## 2. 加熱炉LNG（液化天然ガス）化

平成23年9月に圧延工程の加熱炉に使用するA重油を天然ガスに転換し、CO<sub>2</sub>排出量の削減にも努めております。



天然ガス供給設備

## 会社概況

### 会社の概要（平成23年9月30日現在）

資本金	2,453,000,000円
本社	東京都千代田区神田司町二丁目2番地
発行済株式総数	17,446,000株
株主数	833名
従業員数	109名
ホームページ	<a href="http://www.kohtetsu.jp/">http://www.kohtetsu.jp/</a>

### 役員（平成23年9月30日現在）

取締役社長 (代表取締役)	南 良 隆
専務取締役 (社長補佐・本社機構担当)	新 野 善 行
常務取締役 (工場長兼工務部長)	中 野 收
取締役 (営業部長)	峯 岸 裕
取締役 (製造部長)	安 保 義 久
取締役 (経理部長兼総務部長)	小 口 芳 一
常勤監査役	上 野 秀 男
監査役	宇津木 修
監査役	池 田 文 美

# 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	株式会社大阪証券取引所 (JASDAQ市場)
公告の方法	電子公告 (当社ホームページに掲載) ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店においてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

